

令和 4 年度

御幸が原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人権尊重の精神を基盤に，児童が多様な人々との「協働」を通して，自ら考え未来を創造し，たくましく生き抜く人間力の基礎を培う。

〈目指す児童像〉

「発見」：新しい知との出会いや初めての経験を通して，自分の可能性や仲間のよさを発見する児童

「挑戦」：明確な目標をもち，仲間と協力しながら困難な課題に取り組み，前向きに夢を追う児童

「創造」：日々の学びの中から，新しい自分や多様な価値観を生み出し，新しい時代を築く力をもった児童

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- ・様々な社会変化に柔軟に対応し，新しい時代を生きる力を育成するため，児童自らが考え行動しながら自己表現できる機会の創生と，仲間との「協働」を通して豊かな人間性を育む教育活動を展開する。
- ・教職員がそれぞれの強みと熱意，英知を集結し，家庭・地域と連携しながら活気に満ちた教育環境を醸成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）児童が個々の力を発揮するとともに，仲間と互いのよさを認め合いながら，新しいことに挑戦し伸びていく機会の創出に努める。
- （2）教職員は児童一人一人の良さを認め課題に寄り添いながら，「褒めて励ます指導」を通して児童との信頼関係の構築に努める。
- （3）地域社会・保護者・地域学校園内小中学校と連携し，目標を共有しながら，地域教育資源の効果的な活用を図ることにより，「社会に開かれた教育課程」の具現化に努める。
- （4）「児童が課題意識をもって主体的に取り組む授業」を通して基礎学力の定着を図るとともに，対話型の課題解決学習を取り入れながら，知識を活用する力の育成に努める。
- （5）教職員が組織力を生かして課題に対峙することで，個々の資質向上及び組織力の向上に努めるとともに，校務の改善や保護者ボランティアの効果的な活用を通して，教職員の勤務時間の適正化を図る。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

- ・各教科の指導内容との関連性を重視し，学年行事・特活・総合的学習等の時期や内容を設定する。
- ・地域社会の教育資源を効果的に活用し，学習活動の場の広がりや習得の深まりを目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・教職員が学校課題を共有し、方向性を明確にして解決に向かう学校組織の機能向上。
- 児童一人一人が自分の居場所をもち、仲間と認め合いながら、力を発揮できる場の創生。
- ・地域社会への積極的な情報発信による信頼関係の構築と地域教育力の効果的な活用。

【学 習 指 導】

- 協働して課題解決に取り組む活動を通した、主体的に学びに向かう力の育成。
- ・習熟度別学習や ICT の効果的な活用による学習内容の確実な定着と理解の深化の追究。
- ・「一人一人を生かし、自己肯定感を高める指導の工夫」の研究を通した授業の充実。

【児 童 生 徒 指 導】

- 認め励ます指導を通した自己肯定感の涵養と、目標をもち活動に主体的に取り組む態度の育成。
- ・規範意識の高揚と、多様性を理解し仲間と認め合いながら伸びていく集団の形成。
- ・SNS、通信型ゲームを起因とする問題行動の早期把握と指導体制の構築。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・児童が運動能力に関する自分の課題を知り、楽しみながら体力の向上を図る体育活動の充実。
- 「健康・安全」「食」に関する課題の把握と、実践力を伴う生活改善の意識の育成。
- ・感染症拡大防止に関する正しい知識の理解と、生活習慣の確立。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価									
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① <u>漢字の読み書きや計算力の定着を図るため、指導を充実させる。</u> ・朝の国算チャレンジタイムを活用した学習支援の充実(各学年に応じたドリルやプリントなど) ・宮っ子ステップアップシートの活用 ・A I ドリルの活用 ② <u>家庭学習習慣の確立のための工夫を図る。</u> ・「みはらっ子家庭学習の手引き」の活用 ・自主学習ノートの活用と啓発と保護者への協力依頼 ③ 話合いの仕方の指導 ・話合いの意図的な設定と工夫 ・低・中・高学年の発達段階に応じた話合いの仕方の掲示	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.3</td><td>90.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.6</td><td>86.2</td></tr></table> 児童・教職員ともに、目標値を上回っているが、肯定的回答率は、昨年度より下回った。授業やノートの活用を通して、児童の学習意欲を高める指導を工夫する必要がある。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、朝の学習等の時間を活用し、基礎学力の定着を図る。 ・よいノートを紹介し合うなどの活動を通して、自主学習への取り組みを奨励し、児童の学習意欲を高める。 ・話し方・聞き方の決まりについての指導を行い、話合いの基本的な学習態度の定着を図る。		R 3	R 4	児童	92.3	90.8	教職員	96.6	86.2
	R 3	R 4											
児童	92.3	90.8											
教職員	96.6	86.2											

目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。 ・ Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ・ 授業や日常生活において、望ましい言葉づかいや友達を敬称（～さん）で呼ぶ指導を更に定着させ、自他を大切に思う心や態度を養っていく。 ② 道徳の授業を通して、自他を大切に思う心や態度を養い、日々の生活に生かす力を育成する。 ・ 道徳の授業を充実させ、学級内に道徳コーナーを設置し、授業後に学んだことをふり返ることができるようにする。 ・ 年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施する。	B
-------------------------------------	--	---	---

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ・各種検定等における、各学年の目標を児童に提示し、体育の授業や強化期間中に意欲的に取り組めるようにする。 ② 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>87.9</td><td>88.2</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>93.1</td><td>89.7</td></tr> </table> 児童の肯定的回答割合が上昇し、共に数値目標を大きく上回った。 学校行事や各教科の授業において目標をもって取り組む機会を設定したことで、達成感を味わうことができたものと考えられる。 【次年度の方針】 ・各教科の授業や各種検定等をさらに充実させ、認め励ます指導を継続していく。 ・学校行事や学級活動においてふりかえりカードを活用し、自身の努力や頑張りに気付くことができるようにする。		R3	R4	児童	87.9	88.2	教職員	93.1	89.7
	R3	R4									
児童	87.9	88.2									
教職員	93.1	89.7									
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、自分の健康に気を付けて生活している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の生活についての実態調査等をもとに基本的生活習慣について（特に睡眠時間・食生活）、家庭との連携を図り啓発や指導をする 「ノースマホ・ノーゲームデーにおけるスマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言 ver.2」を活用したルール作り…養護教諭との連携 ② 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ③ 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ④ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>89.5</td><td>91.4</td></tr> </table> コロナ禍だからこそ、自分の健康に十分に気を付けることができていたのか、昨年度と比べて1.9ポイント向上している。数値指標を十分に達成している。 【次年度の方針】 ・基本的な生活習慣や自らの健康管理、バランスの取れた食事、命の大切さを引き続き啓発・指導していく。		R3	R4	保護者	89.5	91.4			
	R3	R4									
保護者	89.5	91.4									
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 児童85%以上 教職員90%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 ③ キャリアパスポートへ担任や保護者からコメントを記入する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>87.1</td><td>88.2</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>93.1</td><td>89.7</td></tr> </table> 児童の達成状況に大きな変化はないが、教職員は3.4ポイント低下した。 【次年度の方針】 ・各学年の実態に応じて、キャリア教育を取り入れていけるよう意図的に指導していきたい。 ・コロナ禍において、地域の方との体験的な活動等は減ってしまったが、コロナの状況に応じて、少しずつ実施していく。		R3	R4	児童	87.1	88.2	教職員	93.1	89.7
	R3	R4									
児童	87.1	88.2									
教職員	93.1	89.7									

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 日常的に英語のあいさつやゲームを取り入れ、英語の絵本を図書室に置いたり、校内放送で英語の曲を流したりして、英語に親しむ環境を整える。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>87.1</td><td>84.6</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>93.1</td><td>93.1</td></tr> </table> 教職員の肯定的回答は昨年度と同じで、目標値を大きく上回ったが、児童の割合は、昨年を2.5ポイント下回った。コロナ禍の状況と教科化による知識・理解の内容の増加により、コミュニケーション活動が減少されたことが要因と考えられる。 【次年度の方針】 ・担任とALTが連携を図れるように打ち合わせを十分に行ったり、教材研究を行ったりし、児童の主体的な活動を促されるよう指導の充実を図る。 ・感染症対策を考慮しながら、コミュニケーション活動や授業形態を工夫する。		R3	R4	児童	87.1	84.6	教職員	93.1	93.1
	R3	R4									
児童	87.1	84.6									
教職員	93.1	93.1									
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 生活科、道徳、社会科、総合的な学習の時間(宇都宮学)の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市や御幸ヶ原町の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市や御幸ヶ原町の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。 ③ 宇都宮に関わる図書資料を図書室に置いたり、新聞記事を活用した「宇都宮コーナー」を作成したりし、宇都宮に親しむ環境を整える。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>83.3</td><td>82.2</td></tr> </table> 児童の肯定的回答は80%以上で、コロナ禍において、できる範囲で昨年度より多くの活動ができたからだと考える。 【次年度の方針】 ・感染症対策を考慮しながら、「宇都宮学」の内容を全学年において指導できるよう、年間指導計画の整備をする。 ・児童が宇都宮の良さに身近に触れることができる環境を整える。		R3	R4	児童	83.3	82.2			
	R3	R4									
児童	83.3	82.2									
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の活用にも努める。 ③ ICT機器の活用研修を計画的に実施する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>86.8</td><td>92.0</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0</td><td>96.6</td></tr> </table> 児童、教職員の肯定的回答は90%以上で、目標値を大きく上回った。様々な学習活動において、1人1台端末の活用にも工夫して取り組んできた成果である。 【次年度の方針】 ・今年度のICTの活用事例をもとに、さらに様々な学習の場面で実践を図る。 ・図書の効果的な活用の場面についても指導していく。		R3	R4	児童	86.8	92.0	教職員	100.0	96.6
	R3	R4									
児童	86.8	92.0									
教職員	100.0	96.6									

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 総合的な学習の時間や各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。 ・児童会による「感謝の会」の実施 ・生活科における昔遊びでの交流 ・総合的な学習の時間における昔たんけんたいでの交流。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>93.7</td><td>92.3</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>96.6</td><td>93.1</td></tr> </table> 児童・教職員とも肯定的回答割合が90%以上であった。 地域の方や高齢者と交流する機会を設けたことで、感謝や相手を思いやる心が育った。 【次年度の方針】 ・引き続き、全教育活動を通しての人権教育を充実させ、地域の方や高齢者に思いやりの心をもって接していけるよう指導していく。		R3	R4	児童	93.7	92.3	教職員	96.6	93.1
	R3	R4									
児童	93.7	92.3									
教職員	96.6	93.1									
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 各教科や領域、児童会活動における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ・生活科、理科、社会、道徳、の学習との関連、5年総合的な学習「地球にいいことはじめようSDGs」での探究学習 ・環境委員会を中心としたリサイクル活動、健康委員会の食育推進活動 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。 ④ SDGsに関する図書資料や掲示物のコーナーを作り、児童の関心を高める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>85.8</td><td>86.7</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>72.4</td><td>82.8</td></tr> </table> 教職員は目標値をやや下回ったが、児童、教職員ともに、昨年度より肯定的回答は上回った。 各教科や領域等での指導内容をさらに工夫してきた成果が表れている。 【次年度の方針】 ・各教科や領域における環境問題や防災について、生活に結び付けた学習内容の見直しを行う。 ・児童会活動では、委員会活動を中心に、活動内容が「持続可能な社会」実現にどう結び付いているか、活動の意義を考えられる指導を行う。		R3	R4	児童	85.8	86.7	教職員	72.4	82.8
	R3	R4									
児童	85.8	86.7									
教職員	72.4	82.8									
B1 児童は、本の楽しさを味わっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで読書をしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 読書意欲の向上のための環境整備・指導の充実を図る。 ・読み聞かせの充実 ・朝の読書タイム ・読書月間の実施（委員会） ・お話会 ・家読のすすめ【親子読書等】 ・読書記録の活用 ・必読図書の充実 ・読書マッチョマンカードなどの多読賞 ・新刊本、お薦め本の紹介 ・本の予約やリクエストカードの活用 ・市立図書館の活用 ・図書館だよりの発行 ・地域学校園との連携した取組（「鬼怒の本棚」の発行、共通のマナーやお話給食など）	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>78.9</td><td>76.9</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>60.0</td><td>60.3</td></tr> </table> 児童、保護者ともに目標数値を下回っており、特に家庭での読書が習慣化されていない。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、全職員で共通理解を図り、児童の実態に応じて、適切な支援をしていく。 ・家庭での読書の習慣づけの重要性の理解促進を図る。 ・学校での隙間時間を利用し、読書の時間を確保し、読書の楽しさに気付かせる。		R3	R4	児童	78.9	76.9	保護者	60.0	60.3
	R3	R4									
児童	78.9	76.9									
保護者	60.0	60.3									

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・「チームみはらの特別支援教育」の推進 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の教育支援計画を作成し、それに基づいて合理的な配慮を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>教職員</td><td>96.6</td><td>100.0</td></tr></table> 100%の達成状況を得られている。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする児童に対しては、全校体制で共通理解を図り、組織的に、丁寧な支援を引き続き行っていきたい。		R3	R4	教職員	96.6	100.0		
		R3	R4									
	教職員	96.6	100.0									
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① いじめの早期発見・早期対応のためのアンケートを実施し（年4回）、気になる児童への事後指導を行う。 ② いじめゼロ強調月間（5月・9月）の取組を実施し、いじめは決して許されないことを理解させる。 ・計画委員会の活動により、いじめ撲滅に対する児童の意識を高める。 ③ いじめ対策における学校での取組みを、学校だよりや学年だよりに掲載し（年2回）、保護者に伝え、連携を図る。 ④ 人権週間に全校児童で人権標語を作成・掲示し、児童の人権感覚と意識の涵養を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.7</td><td>96.7</td></tr><tr><td>保護者</td><td>79.9</td><td>75.6</td></tr></table> 児童の肯定的回答割合は95%以上であったが、保護者の肯定的回答割合は依然として数値目標を下回っている。 アンケートを基にした教育相談やいじめゼロ強調月間の取組みを行ってきたが、保護者に伝える機会が不十分であった。 【次年度の方針】 ・いじめゼロ強調月間や人権週間の実施前には、学年だよりで保護者に周知し、標語の作成等への協力を依頼する。 ・引き続き、学校でのいじめ対策に関わる取り組みを、学校だよりや学年だよりを通して保護者に伝え、連携を図ることに力を入れていく。		R3	R4	児童	96.7	96.7	保護者	79.9	75.6
	R3	R4										
児童	96.7	96.7										
保護者	79.9	75.6										
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う場をつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ・「めざせスーパーみはらっ子」カードの活用 ・当番活動や係活動など、児童が活躍する場を多く設定する。 ② 教育相談、アンケート、QU調査等の結果を活用し不登校傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。 ③ いじめアンケートを活用し、学校生活への不安をかかえている児童の早期発見・早期対応に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>児童</td><td>94.5</td><td>95.9</td></tr></table> 児童の肯定的回答は昨年度から微増で、数値目標を大きく上回っている。 教育相談、アンケート、QU調査等を行い配慮が必要な児童を早期に発見し、全教職員を通して情報を共有し対策にあたることができた。 【次年度の方針】 ・不登校傾向にある児童に対して、組織的に早期の対応を行っていく。 ・引き続き学級内で児童同士が認め励まし合う機会を設定すると共に、「めざせスーパーみはらっ子」カードを活用する等、担任も認め励ます指導に努め、児童一人ひとりの自己肯定感を高める学級経営を行っていく。		R3	R4	児童	94.5	95.9			
	R3	R4										
児童	94.5	95.9										

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導・配慮（給食）に努める。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>96.6</td><td>100.0</td></tr> </table> 100%の達成状況を得られている。 【次年度の方針】 ・継続して、外国人児童への必要な支援や、ニーズを踏まえた適切な支援を行っていく。		R3	R4	教職員	96.6	100.0			
	R3	R4									
教職員	96.6	100.0									
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童が意欲的に活動できる学校行事の計画・実施に努めるとともに、児童会・委員会活動など児童の主体的活動を積極的に展開する。 ・代表委員会を中心とした委員会活動の活性化 ・学級での活動の充実 ・ふれあい班活動の充実 ② 異学年・幼児・高齢者・地域・学校支援ボランティアなどとのふれあいの機会や交流活動の充実を図る。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。 ・「めざせ スーパーみはらっ子」カードの活用	達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>91.2</td><td>90.8</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>89.8</td><td>91.7</td></tr> </table> 児童、保護者の達成状況ともに大きな変化は無い。数値指標を十分に達成していると言える。 【次年度の方針】 ・新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、取り組み方を適切に工夫して、児童主体の活動や異学年交流、ボランティア活動の充実を図る。 ・また、児童の取り組む姿を基に、スーパーみはらっ子の活用方法を改良し全学年で有効な取り組みとする。 校内研修で授業実践研究することを通して、児童の主体性を促進する。		R3	R4	児童	91.2	90.8	保護者	89.8	91.7
	R3	R4									
児童	91.2	90.8									
保護者	89.8	91.7									
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学校課題に沿って指導目標を明確にし、分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努める。 ・学習課題、「めあて」の明確化 ・学習の成果を実感できる振り返りの活動の工夫 ・分かりやすい板書の工夫 ・話し合い活動の充実 ・個に合わせたICT機器 ② TTや少人数・習熟度別による指導を充実させ、成就感を味わわせるとともに補充のための学習を充実させる。（3学年～） ③ 朝のチャレンジタイムでの担任以外の教職員の支援を計画的に行う。（全学年） ④ かがやきルームでの個に応じたきめ細やかな指導により、安心して学習に取り組めるよう支援する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>96.4</td><td>96.4</td></tr> </table> 児童の肯定的回答は昨年と同じで、目標値を大きく上回った。 授業において、様々な指導法を工夫し、きめ細やかな指導を行ってきた成果が表れている。 【次年度の方針】 ・次年度も、分かる授業を目指して指導法の工夫や教材教具の工夫に努めるとともに、TTや少人数・習熟度別による指導を充実させる。 ・朝のチャレンジタイムでの担任外の教職員の支援を必要に応じて行い、個に応じた指導の充実を図る。 ・引き続き、担任とかがやきルームで連携を図り、チームで支援できるようにする。		R3	R4	児童	96.4	96.4			
	R3	R4									
児童	96.4	96.4									

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 「チームみはら」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら一丸となって取り組むよう努める。 ② 教職員の協働性を高めることに視点を置き、教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について助け合える雰囲気大切に、気軽に相談し合う。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>96.6</td><td>100.0</td></tr> </table> 100%の達成状況を得られている。 【次年度の方針】 ・令和4年度を取組を継続しつつ、途中浮かび上がってきた諸課題には順次適切に対応していく。		R 3	R 4	教職員	96.6	100.0			
	R 3	R 4									
教職員	96.6	100.0									
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>75.9</td><td>65.5</td></tr> </table> 10.4 ポイント低下した。チームとして業務にあたり、職務の充実を図ろうとすると、業務の効率化だけでは追いつかない現状がある。 【次年度の方針】 ・本校の職員数に照らして各種教育活動の精選を引き続き行い、内容の縮小、削減に取り組む。また、各種会議等を実施する際は、できるだけ内容の事前把握に努め、終了時刻を設定することで効率的な時間活用に努める。		R 3	R 4	教職員	75.9	65.5			
	R 3	R 4									
教職員	75.9	65.5									
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園各部会・分科会毎に今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。 ・各部会、分科会の進捗状況について情報共有する。 ② 乗り入れ授業の実施により中1ギャップの緩和を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>79.3</td><td>82.8</td></tr> </table> コロナ禍において滞っていた小中一貫での取組も、できる範囲で活動してきた結果、3.5ポイントの向上が見られた。 【次年度の方針】 ・コロナ禍においても各部会、分科会毎に可能な小中一貫の取り組みを進めていく。乗り入れ授業では、中学校の先生が来て授業をしてくれることで、中学校への安心材料となるため、継続していく。		R 3	R 4	教職員	79.3	82.8			
	R 3	R 4									
教職員	79.3	82.8									
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 地域に住む各種指導者の取り組みや特技を生かした活動を学習活動に関連させて、子供たちに豊かな体験を味わわせる。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を促し、地域の伝統的な行事に対して積極的に関わり、将来の地域の担い手として活躍する児童を育成する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>88.9</td><td>89.3</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr> </table> コロナ禍においてもできる範囲で活動してきた結果、達成状況に大きな変化は無い。数値指標を十分に達成している。 【次年度の方針】 ・地域協議会を開催し、学校と地域の関係性を保ちつつ、関連のある行事において協力し合う。 ・年度更新時、学年間、分掌間で伝達・引継ぎを十分に行い、地域人材と学習活動を有効に関連させる。		R 3	R 4	保護者	88.9	89.3	地域住民	100.0	100.0
	R 3	R 4									
保護者	88.9	89.3									
地域住民	100.0	100.0									

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 御幸が原小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>88.9</td><td>89.3</td></tr> <tr> <td>地域住民</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr> </table> コロナ禍においてもできる範囲で活動してきた結果、達成状況に大きな変化は無い。数値指標を十分に達成している。 【次年度の方針】 ・コロナの感染状況を注視しつつ、引き続き連携を深めていく。		R3	R4	保護者	88.9	89.3	地域住民	100.0	100.0
	R3	R4									
保護者	88.9	89.3									
地域住民	100.0	100.0									
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 保護者85%以上 教職員90%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ）対策、熱中症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>96.6</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>保護者</td><td>89.3</td><td>92.1</td></tr> </table> 教職員、保護者ともに若干ではあるが向上している。数値指標を十分に達成している。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き安全を最優先に考えて学校の環境づくりに努めていく。引き継ぎ簿を活用することで、学校業務との連携をスムーズに行い、安全に配慮した環境づくりを継続する。		R3	R4	教職員	96.6	100.0	保護者	89.3	92.1
	R3	R4									
教職員	96.6	100.0									
保護者	89.3	92.1									
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学習に必要なICT機器を整え児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段適切に活用する能力を育成できるよう、授業において週2回以上の活用を目指し、ICT機器の活用法を発展させる。 ② 学習に必要な図書等を整え、学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、教育課程に沿った学校図書館の環境整備に努める。 ③ 児童の読書意欲を喚起するために、図書室内外の展示コーナーを工夫する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr> <tr> <td>児童</td><td>86.8</td><td>92.0</td></tr> <tr> <td>教職員</td><td>100.0</td><td>96.6</td></tr> </table> 児童、教職員ともに数値指標を超えている。児童においては5ポイント以上向上しており、学校としての取組の成果が表れている。 【次年度の方針】 ・全職員の実践研究を通して、学年の発達段階を踏まえながら、学習活動及び学業指導の中でのより有効な活用方法を模索する。 ・ICT機器とのかかわり方について、家庭にも啓蒙し、連携を図りながら活用できるようにする。		R3	R4	児童	86.8	92.0	教職員	100.0	96.6
	R3	R4									
児童	86.8	92.0									
教職員	100.0	96.6									

	B 2 学校は、人権尊重及び自他の生命や存在を大切にしている児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「先生は、自分の話や悩み・相談などを真剣に聞いてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 児童 90%以上 保護者 85%以上	① どの子にも居心地のよい学級づくりを目指す。 ・年間1回、授業参観時に道徳の授業を実施 ・年間35時間、道徳の授業の実施 ・Q-Uテストの実施、事例研究会実施、活用 ・教育相談週間の実施 ② 人権教育を全校体制で推進し、自他を大切に思う心や態度・実践力の育成に努めるとともに、教職員対象の人権教育ワークショップを行い、教職員の人権意識も高めていく。 ③ 児童の困り感や保護者からの相談に対して、きめ細やかな対応を行っていく。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.7</td><td>94.4</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.4</td><td>86.2</td></tr></table> 数値指標を達成しているが、児童は2.3ポイント、保護者は4.2ポイントと、どちらも昨年と比べて低下した。 【次年度の方針】 ・様々な取り組みを引き続き丁寧に行っていく中で、児童と向き合う時間の質をより高めていく必要がある。		R3	R4	児童	96.7	94.4	保護者	90.4	86.2
	R3	R4											
児童	96.7	94.4											
保護者	90.4	86.2											
本校の特色・課題等	B 3 学校は、「自分を伸ばし、仲間と伸びる児童」を育てる教育活動を工夫している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、『自分を伸ばし、仲間と伸びる児童』を育てるために、教育活動の活性化に努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 児童の発想を生かした児童会活動や、仲間と力を合わせて取り組む学校行事や学年行事の内容充実を図る。 ・あいさつ運動等、児童の発想を生かした委員会活動 ・児童によるスローガン募集と運動会運営 ・児童集会の内容充実 ・募金活動等 ・チャレンジギネス等の活動	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>保護者</td><td>89.1</td><td>84.4</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr></table> コロナ禍の現状でも、工夫している様々な学習活動を実施した結果、数値指標としては達成しているが、保護者の回答は昨年から4.7ポイント低下している。 【次年度の方針】 次年度も、コロナ感染状況を踏まえつつ、児童の発想を生かした活動を継続していく。		R3	R4	保護者	89.1	84.4	地域住民	100.0	100.0
	R3	R4											
保護者	89.1	84.4											
地域住民	100.0	100.0											

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・ほとんどの項目で、目標とした数値指標を上回った。今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ながらの学習活動ではあったが、教育活動をほとんど止めることなく進めてきたためと思われる。特に、「時と場に応じたあいさつをしている」「いじめが許されないことを熱心に指導」「一人一人を大切にし、認め励まし合う場をつくっている」「分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」の児童の肯定的回答は、いずれも95%を超えた。これは、今年度の学校課題を「一人一人を生かし、自己肯定感を高める指導の工夫」として、毎日の生活や学習活動の中で、一人一人を大切に指導してきた成果だと考える。

・「ICT機器や図書を学習に活用している」の児童の肯定的回答も高い。令和3年度よりスタートしたGIGAスクール構想により整備された1人1台端末を、まずは使ってみることから始め、ICT支援員の協力を得ながら、どのように活用できるか模索し授業に取り入れてきた成果だといえるであろう。今年度は、授業だけでなく、委員会活動において1人1台端末を活用した放送番組を制作したり、食育啓発動画や図書館だよりを端末から自由に見ることができるようになり、幅広い活用方法を試みてきたことによるものと思われる。

・「児童は、進んで読書をしている」の肯定的回答は、児童・保護者ともに数値指標を下回った。じっくり本を読むという時間を確保しにくかったり、1人1台端末を活用しての家庭学習の時間が増えたりしたことも影響していると考えられる。学校においては、朝の活動時に読書の時間を確保したり、読書月間に様々な活動を取り入れたりすることで、本に親しめるよう工夫してきた。今後は家庭への啓発もしながら、継続して指導していく。

○『自分を伸ばし、仲間と伸びる児童』を育てる教育活動の工夫として計画されている様々な活動に対し、地域協議会の一部である学校支援ボランティアを始めとする方々との連携協力は欠かせなかった。今後も、学校の取り組みを理解していただきながら、充実させていく。

7 学校関係者評価

- ・授業参観の折には、パソコンの専門家（ICT 支援員）がお手伝いしてくださり、1人1台端末を使って学習している姿を見ることができた。ICT 支援員がいないクラスでも、端末を自由に使いこなしている子供たちの姿を目にし、先生方が日々1人1台端末を使って指導してくださっているおかげだと、感謝している。外国人の先生（ALT）と一緒に外国語の授業が行われていたり、算数で習熟度別学習が行われていたりして、活気があった。
- ・今年度も、学校教育の様々な場面で学校支援ボランティアの活動が見られた。コロナの収束に伴い、以前のように学校・保護者・地域が一つになって、学校を支えていけることを願っている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 次年度も、「自分でよく考え、未来に向かってたくましく生きる子供の育成」のビジョンのもと、教職員が自らの資質向上に努め、「自己肯定感を高める指導の工夫」や「効果的な ICT の活用や協働的な学びを生かした授業づくり」を実践していく。
- ・きまりやマナーについては、「みはらのきまり」や「めざせ スーパーみはらっ子」との関連を図り、週的生活目標を行動目標として設定したり、強調週間として全校体制で指導に当たったりしてきた成果が見られた。引き続き全職員が同一歩調で指導していけるようにする。
 - ・一人一台端末は、次年度以降も学年学級の実態に応じて様々な形で活用し、全職員で情報を共有しながらできることを進めていく。同時に、本の楽しさに触れる機会を増やしたり、図書資料を効果的に活用して調べ学習を進める方法についても指導したりしていく。
 - ・いじめ・不登校については、学校から学校教育に関わる様々な情報を発信し、学校・家庭・地域が連携をより強化し対応していく。コロナ禍で自粛せざるを得なかった各種交流活動についても、敬老会をはじめとする地域諸団体等との連携や学校支援ボランティアの方々の協力により様々な教育活動を進めていくことで、多様な考えや自分のよさに気づき、自他の大切さを認識する機会を確保し、いじめや新たな不登校を生み出さないよう努めていく。